

疫学（臨床）研究実施についてのお知らせ

大阪市立大学大学院医学研究科
放射線診断学・IVR学/放射線腫瘍学

【研究課題名】

術前化学放射線療法により病期改善が得られ手術が施行された切除不能胸部食道癌の治療成績の検討

【研究期間】

参加者のカルテ上の診療期間：2007年1月1日（西暦）～2016年3月31日（西暦）

研究期間：倫理委員会承認後～2019年3月31日（西暦）

【研究の意義・目的】

当院の胸部食道癌の症例で、臨床病期 T4(cT4) もしくはリンパ節転移による臓器浸潤のため、初期診断時に切除不能と判断された症例のうち、化学放射線療法後に病期改善が得られ、手術可能となった症例の治療成績について遡及的に評価する。

本邦では、原発腫瘍もしくはリンパ節転移の周囲臓器浸潤のため、切除不能な局所進行食道癌に対し、FP療法(CDDP/5-FU)を用いた根治的な化学放射線療法(以下、CRTと略称)が広く普及している。しかし、生存率、局所制御ともに十分な治療成績は示されておらず、集学的治療による新たな治療戦略が期待されている。

当院食道外科では、臨床病期 T4(cT4) もしくはリンパ節転移による節外浸潤のため、切除不能と判断された症例に対し術前 CRT を施行し、<T4かつリンパ節転移節外浸潤が画像上切除可能となった耐術能のある症例に対し積極的に手術を行ってきた。

本研究の対象とする切除不能な胸部食道癌に対する術前 CRT の治療成績を検討した報告は少なく、術前 CRT が奏功し手術が施行された症例を詳細に検討することは、今後の治療戦略の最適化に寄与するものと考えられる。

【研究の方法】

(1) 研究デザイン

後ろ向き観察研究

(2) 実施方法

放射線治療における線量分割および総線量：通常分割照射(1日1回、週5回)にて、1回線量 1.8-2Gy、総線量 40-41.4Gy/20-23fr で治療を行った。

化学療法：低容量 FP療法(CDDP 5mg/m²/day + 5FU 500mg/m²/day)が初回放射線治療日と同日より開始され、放射線照射日毎(週5回)に連日同時併用で実施された。

(day1-5, day8-12, day15-19, day22-26 の計 20 日間で投与終了。)

評価：放射線治療終了日を起点に1-5日前までに、造影CTを施行し、腫瘍縮小及び病期改前の有無を評価した。病期改善が得られ、<T4かつリンパ節転移節外浸潤が画像上切除可能と判断され、耐術能のある症例を手術適応とした。臓器浸潤の残存が疑われ、切除不能もしくは困難な場合や、患者側が手術を希望されない場合は、引き続き CRT(追加で 20Gy/10fr)を行った。

【研究組織】

大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学/放射線腫瘍学
研究代表者 准教授 細野雅子

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：細野雅子

大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学/放射線腫瘍学
住所 : 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3
電話 : 06-6645-3831
FAX : 06-6646-6655
E-mail : radiology@med.osaka-cu.ac.jp

【その他、苦情等の窓口】

大阪市立大学医学部経営企画課 外部資金・産学連携担当
電話番号：06-6645-3435